

被災地継続支援訴え

ミャンマー地震 AMDA活動報告



ミャンマーでの活動を報告する
(左から) 神徳さん、菅原さんら

国際医療ボランティアAMDA(岡山市北区伊福町)は17日、ミャンマーで発生した大地震の被災者支援のため、第一陣として現地に入った医師ら3人の活動報告会を市内で開いた。

3人は医師の神徳隆之さん(42)、看護師の菅原久美子さん(45)、AMDA職員の女性看護師。5日午前、最大都市ヤンゴンに入り、現地のNGO(非政府組織)と連携して9日まで活動した。

報告会では神徳さん

が、支援が十分でない地域や不足している物資の情報収集に注力したと説明。被害が大きかったマンダレーやネピドーなどの医療機関や大学といった支援先12カ所を絞り込み、物資を購入するための資金などを送ったことを

痛感した」、神徳さんは「思った以上に支援が届いていない地域が多く、今後もサポートが必要だ」と語った。地震は3月28日に発

振り返った。
菅原さんと女性看護師は「軍事政権下で移動が制限される中、現地のNGOと連携して支援に当たる重要性を

生し、3千人以上の死者が出ている。

(柴田紗弥)